

**アークフラッシュされた全国48箇所の老人施設は8年間インフルエンザの発症が報告されておりません。**

< \* > <http://www.arc-flash.co.jp> アークフラッシュNEWSをダウンロードによりご覧頂けます

鹿児島県生活衛生課に19日入った連絡によると、南さつま市の研修施設で集団宿泊学習に参加した小中学生31人が、下痢やおう吐の症状を訴えていることが分かった。同課は食中毒と感染症の疑いがあるとして調べている。入院した児童はおらず、全員快方に向かっているという。同課によると、宿泊体験学習は13～15日、県内20校の児童367人、教諭50人が参加。そのうち、9～13歳の児童31人が症状を訴え、25人が病院の診察を受けた。

松江市下東川津町の松北病院(岩田兼正院長)で、院内感染により入院患者24人と職員5人の計29人がノロウイルスが原因とみられる下痢などの症状を発症していたことが19日、分かった。同病院によると、16日の午前中から、入院患者らが症状を訴え始めた。17日に松江保健所が調査し、ノロウイルスが検出された。重症者はおらず、感染は終息に向かっているという。県薬事衛生課は食中毒ではないと判断、感染経路を調べ、拡大防止策を指導している。岩田院長は「手洗い、うがいを呼びかけ、汚物の処理などを徹底していきたい」と話した。

**激しいせきが続く百日ぜき。**今年患者数が00年以降、最速ペースだ。かつては「子どもの病気」とされていたが、現在は患者の4割近くを20歳以上の大人が占める。春から夏にかけてが流行期のため、注意が必要だ。国立感染症研究所によると、4月20日現在の患者報告数は1264人。現在の調査体制になって以降最多で、同時期の最高だった00年の961人を大きく上回っている。このうち20歳以上は全体の約38%に上るが、全国の小児科約3000カ所の報告を基にまとめているため、実際の成人患者はさらに多いと見られている。同研究所は「乳幼児期に接種したワクチンの効き目が弱まったためではないか」と分析している。百日ぜきは、せき、くしゃみの飛沫(ひまつ)や接触で感染する。同研究所感染症情報センターの安井良則・主任研究官は成人の症状として、初めは風邪のような症状で始まり、次第にせきが強まる。熱はほとんど出ない。夜間に発作性、けいれん性のせきを繰り返すようになり、嘔吐(おうと)を伴うこともある。などを挙げる。乳児では、無呼吸発作やチアノーゼ、けいれんを起こしたり肺炎、脳症を合併する場合がある。

2008年5月19日、中国新聞網が伝えたところによると、5月17日午前0時までの段階で、広東省の手足口病患者が2万1830人に上った。死亡者数は増加していない。専門

家の話では、過去の流行サイクルから見て6~7月が手足口病のピークとなるため、今後しばらくは同省内の発症例は増加する可能性があるという。しかし、広東省疾病コントロールセンターによると、広東省の手足口病の感染者数は3万人前後に抑えられる見込み

2008年5月13日、北京市衛生局は同市で今年初となる手足口病の死者が出たことを発表した。また河北省籍の患者1人も北京市の病院で死亡している。今年5月12日までに3606人の感染が確認されている。新京報が伝えた。現在、北京市では手足口病が広がりつつあり、地区別の感染者数を見ると朝陽区、豊台区、昌平区が上位3位を占める。累計の入院患者数は70人。北京市籍の患者が55人、市外の戸籍を持つ患者が15人となっている。うち2人が死亡、36人が退院した。現在の入院患者数は32人、うち8人が重症と診断された。当初はコクサッキーウイルスによる感染が主流だったが、次第に他地域と同じくエンテロウイルス(EV71)の感染へと流行はシフトしつつある。  
**オリンピック観戦で感染か？(笑)**

**施工代理店 各位**

**大型工事受注に対して工事参加代理店を募ります。  
参加希望の施工代理店は、本部までご連絡ください。**

**\* 発行責任者 :株式会社アークフラッシュ本部  
笹川 透**

03-5337-7275 FAX 5337-7465 [sasagawa@arc-flash.co.jp](mailto:sasagawa@arc-flash.co.jp)

過去のアークフラッシュNEWSはホームページよりご覧になれます。